

## 編集後記 / 奥付

雑誌名	三重大史学
巻	9
発行年	2009-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10076/10644">http://hdl.handle.net/10076/10644</a>

「二〇〇八年度卒業論文題目」

井上 亮 邪馬台国と狗奴国―対立とその原因―

大竹 孝平 縄文から弥生移行期における社会の様相

―土器研究からの視点―

戸伏 知子 古代・中世における「疫鬼」の認識について

垣本 鉄平 近代以降における新選組像の成立と展開

「二〇〇八年度修士論文題目」

藤岡 直子 伊勢亀山城の基礎的研究―築城背景の再検討―

代田 美里 江戸時代における「漂流記」の成立とその広がりにつ

いて

長縄 智美 明治維新时期における旧藩の金銭貸借問題

―旧津藩を事例として―

「編集後記」

『三重大史学』第九号をお届けいたします。今回は、原始から現代に至るまで、さまざまな時代の論文を掲載することができました。執筆者の方々にお礼申し上げます。

本来でしたら、右の卒論題目に考古学の大森俊輔君の卒論も並んでいたはずなのですが、今春不慮の事故により帰らぬ人となってしまい、彼と永遠の別れをしなければならなかったことが悔やまれてなりません。

卒業生もだんだん社会で活躍する年頃になり、卒論発表会の際などに成長した姿を見せてくれることを大変嬉しく思います。普通に卒業できていたら、大森君も数年後には彼の作った和菓子を持って卒論発表会に来てくれたのではないかと思います。謹んで彼の冥福をお祈り

いたします。

こうしたこともあつて今年の卒業生は四人と少ないのですが、来年以降は一気に増える予定です。また留学生も数名在籍することになっており、考古学・日本史研究室は大所帯になります。これが何によるものなのかはわかりませんが、卒論演習をどうするのか、教室をどうするのかといった、いろいろ困った問題もでてきます。

学生諸君には、軽佻浮薄の世相に流されることなく、じっくり腰を据えて歴史上の諸問題に取り組んでいてもらいたいと思つていま

(山田)

三重大史学 第九号

二〇〇九年三月三十一日発行

編集・発行 三重大学人文学部考古学・日本史研究室

〒五一四―八五〇七

三重県津市栗真町屋町一五七七

TEL: 〇五九―二三二―二二二一(代表)

FAX: 〇五九―二三二―九九九九(共同)

MAIL(山田雄司): yyamada@human.mie-u.ac.jp

印刷 伊藤印刷株式会社(津市大門三二―一三)